

琴後集序

和歌詩也。短歌絕句之類也。長歌歌行之類也。六義既備、抑揚頓挫、

亦如詩然。余獨讀藤式部源氏傳、知左氏莊周司馬遷之文、可中。

以和言為之。源氏傳以上、何其無聞也。源氏傳以後、何其無

文既存，左氏莊周遷之文，安得無唐宋八家之文哉。求之於古，而不得；求之於今，而得之於平春晦先生。先

生有三琴後集如干卷，其歌則不復論。余獨論其文曰、記廿一首、

序十八首、題跋十二首、書牘廿三首、雜文三首、墓碑一首、祭文一

自、外集卅八首。編文具此諸体、非唐宋八家別集之制乎。升降

整齊而錯落、勃窣而婉曲、文其辭氣也。前提是後觀、回包接刃、留訪不失分寸、文其步驟也。抑揚開闔、操縱起伏、文其變化也。

卷之三十一

待後、奇峰突起、橫雲斷山、文其形勢也。截然有界、段落之文也。

締然相屬、過接之文也。承上起下、転捩之文也。作文具此數法、

非唐宋八家之筆乎。先生非獨其於文爾，其於論道亦云，我邦

周公孔子之道，舊周公孔子道，而別取道於我太古。吾

隋唐制度也。百官有司、皆学<sub>三</sub>唐制、稍变<sub>一</sub>之也。律令格式、皆模<sub>三</sub>倣<sub>一</sub>做

唐制也。博士立明經文章天文陰陽律算音諸科、不立和學歌學博

三、所謂和歌博士者、出自江匡房戲稱。和学歌学之名、考之古

未之有也。和学也者、儒者之通本朝典故、言辞也已。歌学也者、

大竺有釩氏之道、後漢傳之、而盛於隋唐、唐之詩人、有「儒有」

僧、李白杜甫韓愈、儒也。王維白居易、內仏外儒也。其詩非<sub>二</sub>風雅之音、則禊氏之偈也。宮人工女、亦沿<sub>二</sub>家風者<sub>一</sub>也。吾儕雖庸陋

婉曲一言論が緩やかで、しかも角が立たない。○前提後綱一文草初案をめぐらせて最後に述べる。○留待後一箭を採るのを待つて竹の伸びるのを待つ。○奇峰尖起一珍しい形の嶺が高く突き出る。○横雲斷山法一文章草。横雲が山を断つ。金聖歎「第五才子書水滸伝」説第五才子書法」に出る。○截然有界一くっきりと境がある。○縦然相屬一長々と続く。○過接之文一内容が付きまとわれる文。縦愈逃高閑上人序「文章規範」の介評。○水上承下一上の文章を承けて下の文章を起こす。韓愈「与于襄陽書」を承けて文。○我邦の所道一日本への道を認めていた。○道々といふは、ことごく札撰にして、直麗な道いふ書は、殊に妄説の甚しき物也。吾は孔子は甚きらひの道をのみこそいたとめ。日本の道などは甚きらひの道をのみこそいたとめ。○和泉真国「明道書」。○公孫子之道一儒学。○日本公孔子之道法源。○博士一古代日本の官職。大学寮に属するものに、文章・明經・明法・算音の博士があり、教授考を治める。陰陽寮に属するものに、陰陽博士があり、天文・漏刻の博士があり、天文曆数を治める。○和歌博士一「本朝統文粹」卷三の策の中に「詳和歌、從四位下、和歌博士」とある。○江匡房一人江匡房。歌人・学者。有職故吏に詳し、帝の御讀を務めた。○戲称一ふざげて付けた称呼。○大竺一仏教發祥の地。○釈氏之道一仏道。○李白杜甫韓愈一いずれも唐の詩文家。○内仏外儒一心のものは仏教を信仰し、社交の場では儒教の教えに従う。○偈讀を務めた。○少而仏老而儒一若い時は仏教に從い、老いてから仏教を信仰する。○童強傳会こじつけ。○卓異僕僕一ずば抜けで優れていること。○百二十世天皇一光格天皇。○葛質・葛西因と。○漢詩人・漢学者。春海の雅友。

古詩体の長編。○六義詩——詩體の風雅頌賦の体の名。五言または七言を一句とし四句からなる詩の体の名。

○歌行——頌賦體の名。○古詩——詩體の風雅頌賦の六義詩の一つ。

○抑揚頓挫——抑揚法と頓挫法。ともに文章法の一つ。「有抑揚、有頓挫」——文章規範、將次序。

○左氏——魯の左丘明。春秋左氏伝を著す。

○莊子——莊子を著す。○司馬遷——漢の司馬遷の史記を著す。

○唐宋八家——唐宋一代にわたる八人の文豪。韓愈、柳宗元、歐陽修、蘇洵、蘇軾、蘇曾、王安石。

○沈德潛——唐宋八家左氏伝を著す。

○文選本——文選本がよく読まれた。○先生有琴後集若干卷がある。(以下因は)原文は次の通り。「先生有琴後集如下巻、其歌則不復論、余独論」——文選曰。知如十、消息書贊也。著述雜著也。

○蘇軾——蘇軒、曾鞏、王安石。

○沈德潛——唐宋八家別集之制乎?——因是文稿上「琴後集序」、天香樓叢書。

○八首——琴後集若干卷がある。(以下因は)

○次の一三十八首が收録の予定であった。作詞通弊、序跋如上、若者述如干、消息書贊也。著述雜著也。

○編文具——此諸体、非唐宋八家別集之制乎?

○考——皇朝典籍略記、齊明紀童謡考後接、讀紀小識

○書讀書筆記、讀史記、長上弁之并、今案集後記

○逸令考、令合分条考、長上淮記、方案集後記

○仙詔記、岡部家譜考証、伊勢物語新義、永久四百筆の考、歌がたり、とはづがたり、窓の雪

字大意抄、仮字拾要、若桂、玉辭附論、字合稱呼

考、皇朝典籍略記、齊明紀童謡考後接、讀紀小識

○舟路のさま、贈贈掛大平書、贈贈掛大平書、答和泉和麻呂書、再和麻呂にこたふる書、家集弁。○唐宋八家別集之制——唐宋八家それぞれの個全集。

○升降前却——升前却下と進退。

○歩驟——歩くことと走ること。

○開闢——開闢法。

○文章規範——文章規範の山陽評。

○整齊——整齊而錯落——整齊而乱。

○勃窣——としていながら雜亂に入り乱れている。